

## 42年度事業の実施について

昭和42年2月23日

国際課 久保克己

(国際的原子力共同活動)

### 1. 情報交換活動の積極化

#### a. 一般活動報告の交換

各国機関 (IAEA, ENEA, コーラム, フォラム  
各国フォーラム等) が発行している一般レポート  
並びに資料の定期的入手を計る。特に、コーラム  
の各委員会活動に関する資料の入手により、  
原産の委員会業務の充実に資する。

#### b. 国際会議の把握

海外諸国で開催される原子力関係会議並びに  
訓練コース (月平均10~15回) 等につ  
いての内容並びに関係資料の事前入手を計り、  
関係者に伝えると同時に参加の際の窓口業務を  
行う。その際、ケースによっては調査団の編成  
或いは我が国への招請開催等の企画も  
考へる。また入手した資料の活用と資料  
サービスの一環として考慮する。

#### c. 在日科学アタッシェとの交流

米、仏、ソ、印、比等の関係者と定期的  
(月1回程度) に会合を持ち、各種情報  
資料の入手を計ると同時に協力事業等の  
企画も考慮する。(原産アタッシェ業務の補足的  
機能と考へられる)

### 2. 東南アジア諸国に対する協力

#### a. 我が国原子力関連機器の輸出振興を目的として